

2019 年 4 月上旬の東日本エリアの市場状況について

(趣旨)

4 月 1 日～13 日のスポット市場の東日本エリア（北海道、東北、東京）にて、エリアプライスの高騰が発生した。北海道、東北、東京のエリアプライスは、同エリアでの過去最高価格 60.00 円/kWh を記録。また、4 月 10 日の東京エリアのエリアプライス日平均はスポット市場最高日平均価格 39.56 円/kWh となった。

東日本エリア（北海道、東北、東京）でのエリアプライス高騰の要因について、事務局において関係事業者からヒアリングを行うとともに、スポット市場における事業者毎の売買の状況等について調査を行ったので、その結果を本委員会にて報告させていただく。

主なポイント

- 例年同様に、春期に停止電源が増加している状況において、4 月上中旬に東北・東京エリアの気温が大きく低下し、需要が増加（3 月上旬並みの 5776 万 kW となり昨年比 1000 万 kW 程度増加）したことが最大の要因と考えられる。
- 同時に、4 月 2 日～6 日及び 8 日～9 日において FC 連系線の作業停止により潮流量が 300～600MW 減少したことで、市場価格が上がりやすい状況でもあった。
- 加えて、年度初めの時期であり相対契約の変更など調達環境や入札方法の変化が多く、事業者によっては、調達電源の多くが停止したことにより、スポット市場からの調達量を増加させたことが、市場価格に影響を与えたものと考えられる。
- なお、バランス停止の増加によると考えられるブロック入札が増加傾向にある。ブロック入札の量を分割するなど入札の工夫も行われているが、量や時間帯が合わないことによる未約定やブロック入札によるパラドックスも依然として発生していた。
- 先渡市場の週間商品を活用した価格ヘッジは可能であったと考えられるが、取引状況は非常に少ない状況であった。

以上